



多摩キャンパスにホテルを復活させろ

経済学部教授・同隊長 岡部 雅史

多摩キャンパスは東京都町田市相原町に位置し、キャンパス全体の面積は東京ディズニーランドとほぼ同じ面積であり、その広大なキャンパスには経済学部、社会学部、現代福祉学部が豊かな自然の中に巧みに配置されています。この地では20年前に市ヶ谷から学都に移転して来た多摩キャンパスが自生しており、移転当初から学内有志(学生、教員、職員)によってホテルの保護活動が多摩キャンパス4号調整池を中心として10年ほど前まで続けられました。この調整池ではホテルの保護のために池の水をポンプを用いて循環させ、池の周りに設置した2本の水路(各水路とも幅20センチ、深さ30センチ、長さ30メートル)に各水路ともに毎分60リットル流し池に還流させていました。この水路にホテルの幼虫のエサとなるカワニナを放流しホテルの生存の維持が図られており、初夏の夕暮れ時に4号調整池の周りを飛び交う蛍光を愛でる事ができたように、いまでこそオートロープの設置は流行りになっておりありますが、当時からのこのようにオートロープが設置されていた事は驚きでもあります。残念な事におよそ10年ほど前に調整池の故障や有志学生の卒業、教職員の移動、退職などによって細々と続いていたホテル保護も顧みられる事がなくなり、池の循環ポンプの故障とともに水路は干上がりカワニナも絶滅し、さらに水路は土砂に埋まってしまふホテルは姿を消してしまつたように思っています。この現状を憂いている学内有志(調整池オートロープを中心とする学生諸君)、多摩環境センターの教職員が立ち上がり、昨年(2005年)6月より「多摩キャンパ



意外に近くにある地球環境問題

社会学部教授・多摩環境委員会委員長(多摩地区環境管理責任者) 池田 真二

市ヶ谷の学生諸君の中にはまだ知らない人も多いかもしれませんが、多摩キャンパスにはアークセムが不便なだけ環境には恵まれていて、校地のおよそ半分は雑木林に囲まれていて、秋の紅葉(黄葉)は美にみごとです。暑い夏も、林の中はかななり涼しく快適です。

このような環境の中で生活している多摩キャンパスの学生でさえ気づいていない人が多いのですが、実はこの雑木林にも地球環境問題の片鱗を見出すことができます。人工も地球環境問題の片鱗を見出すことができます。人工も林ではないのだから放置しておけば問題はないという見方もあるのですが、昔は周辺地域の人々が下草を刈った山菜を採ったり落葉を集めて畑の肥料にしたり、時には猪などの野生動物を捕獲したりしながら、さまざまな活用し管理してきた「里山」ですから、今のようになど人工が入って活用しなくなると、どんどん林が荒廃してしまうという見方もあるのです。森林が荒廃すると二酸化炭素の吸収能力が失われて温室効果が高まり地球温暖化を加速させてしまうと言われていることぐらひは、学生諸君もすでに「常識」として知っていることと思います。もし、そのとおりで多摩キャンパスの雑木林を荒廃させないようにならなければならぬいかに思います。

ただ、このようなことを言っても、森林の「荒廃」とはいつたかという状態のことを言うのかよわからぬという人も少なくないであろうと思えます。私は、社会調査実習などの機会を巡して、学生を「荒廃」して見ている森林の現場に連れて行き、「荒廃」から森林を守ろうとして日々頑張っている地元の方がら、「荒廃」を目で見ると体験的に字は使えていないでいます。その現場も、多摩キャンパスから出で1時間もかからずにアークセムである丹沢山系の山村です。地球環境問題はどのように意外に近くにあるのです。まずは、多摩キャンパスの雑木林から地球環境問題を考えてみましょう。

農のパワーおそるべし

有機農業実習サブゼミの話

社会学部教授 岡野内 正

「きゃー、疲されるー! わたし、土いじっていると、ちょー落ちくんだり。」

そんな学生の叫びを聞きながらほぼ週に1度、キャンパス近くの畑に行くようになって3年。この日も雨の土をひたひたに踏む。

私自身は商売の生まれで、農業体験はない。なぜ「開拓荒土国」の経験はなくてもいいか?…そんなことを研究し、働き、年2回の修学世界スタディツアーを行ううちに、最近の自給的有機農業普及の動きに注目。社会のあり方、開発の進め方を根底から変えるような気配。

とすれば、食らうべき学問を標榜するゼミとしては、まず実践だ。以前から畑作りを取り組んでいた学生の環境サークルH.E.L.P.の紹介で、近所の農業者の方から5メートル四方の畑地を無料で貸していただいた。さらに2年前からは、同僚の田中慶子ゼミと共同で学内に土壌を確保。オープンサブゼミなので、履修登録をしていない学生や他学部生も参加して、10人ほどで、主にイチゴ類、めいめいの推薦作物を育てる。

土を触り、伸びる植物を見るのも楽しいが、それがきっかけの人間関係がまた楽しい。畑を通るかかかると、畑を見られるプロの目は厳しいが、暖かいアドバイスがある。間引きのほつれん草や春菊を洗って大学食堂にもっていく。「生で食べるの初めて!おいしい!」「うまいですね!」たちまち、学生や教職員の間で評判。秋には、収穫祭の手はり、焼き芋大会。

耕すばかりでなく、近くで有機農業をやる若い専業主婦農業者の畑見学。有機農業の田植え体験や、学外畑のオーナーMさんの案内で山菜取り。夏祭りのお神輿折ぎにも参加。ついに「タナー」農業をめざす学生も現れる。農の「パワー」おそるべし。ゆくゆくは、芝生と植木のカンパナスを野菜と果樹に取り替えていこう。世界を変え、人類を救うのはここからかもしれない。

総合系専攻科目 総合科目

○環境関連科目
哲学 I・II、倫理学 I、日本史 I・II、文化人類学 I・II、
地理学 I・II、物質と環境 I・II、科学史 I・II、基礎ゼミ
I・II、健康の科学 I・II、環境倫理学、人間と地球環境、
自然環境のしくみとその変遷、都市文明と自然、地球環境
の科学

法学部

○ゼミナール
五十嵐敬喜(都市政策論)、太田九二(有機化学)、竹内
昭(哲学)、多合千香子(国際人権法)、武蔵博己(行政
学)
○環境関連科目
新市政論、行政法 II(一部)、行政法 I(二部)、社会政
策、環境政策、公共投資論、行政過程論、日本政治史、
国際人権法、演習(都市政策)、演習(行政学)

工学部

○ゼミナール
佐藤典人(自然地理学)、彦原利子(土壌地理学)、中島
弘一(分析化学)、小寺浩二(自然地理学)
○環境関連科目
○哲学科 歴史地理学、倫理学概論、宗教学 I(伝統宗
教)1・2
○日本文学科 日本文学研究特講(7)近代A、社会思
想2A
○英文学科 英語表現演習(Speaking)(6)
○地理学科 地理学概論(1)(2)、現地研究、地誌学概
論(2)、日本地誌(1)(2)、地球科学概論 I・II、地学
実験(コンビュータ含)(1)(2)、地質岩石学及び実験、
自然環境論、地形学及び実験 I、生物・土壌地理学及
び実験 I・II、気候・気象学及び実験 I・II、海洋・陸水
学及び実験 I・II、社会経済地理学(2)、文化地理学
I・II、地理学 I、自然地理学演習(1)~(3)、人
文地理学演習(1)、世界地誌(1)、地理学図演習
(1)、自然地理学特講(3)(4)

経済学部

○ゼミナール
神合健司(財務会計論)、宇田川勝(日本経済史)、鈴木
武(計量経済学)、藤澤利治(産業史)、今橋 隆(交通
中田和秀(物理有機化学)、柳沼 寿(産業構造・組織論)

学部別環境関連ゼミナール授業科目一覧

環境関連科目

経営戦略論 I・II、組織行動論 I・II、人的資源管理 I・
II、管理会計論 I・II、国際会計論 I・II、日本経営史
I・II、産業史 I・II、流通論 I・II、消費者行動論 I・II、
非常利総論 I・II、交通経済論 I・II、中国経済論

国際文化学部

○ゼミナール
堀上英紀(単細胞動物の行動生理学)、中島成久(文化
人類学)
○環境関連科目
実践国際協力、国民国家と民族 I

人間福祉学部

○ゼミナール
菊地邦雄(自然環境保全論)、石神 隆(都市環境論)、
井上泰生(環境科学)、大西 弘(理論物理学)、堀 裕
史(日本古代文学)、園則守生(環境経済論)、小島 聡
(地方自治論)、後藤彌彦(環境法)、下村泰民(経済協
力論)、関口和男(環境哲学)、田中 勉(産業社会学、
永野秀雄(環境法)、根崎光男(日本近世史)、藤倉 良
(環境システム科学)、堀内行蔵(環境経営論)、山本長一
(現代英米文学)、松本倫明(理論天体物理学)、渡邊 誠
(計算科学)、C・P・ジェンダーラー(環境経済学)
○環境関連科目
人間環境学入門 I・II、環境法 I~III、国際環境法 I・II、
地方自治論 II、環境経済論 I・II、環境経営論 I・II、公
共経済学、環境会計論 I・II、環境経営実践論 I・II、国
際環境政策、国際経済協力論 I・II、途上国経済論、
NPO経済論、現代社会論 I・II、環境社会論 I・II、地域
形成論、地域経済論、フィールド調査論、都市環境論、都
市デザイン論、地域コモンズ論、環境哲学基礎論、環境表
象論、日本環境史論 I・II、生命の現在と倫理、自然環
境論 I~III、自然環境論 IV~V、地球環境論 I・II、A、
地球保護論 I・II、A、エントロピー論、エネルギー
防止管理論 I・II、環境モデル論 I・II、ミクロ経済学 I・
II

社会文化学部

○ゼミナール
小林ふみ子(日本近世文化)、佐賀 浩(環境教育学)、
松島英子(古代オリエントの歴史・文化史)
○環境関連科目

日本文化入門 I・II、日本の生活文化基礎演習、芸術と

社会 I、アジア学 I・II、コミュニケーション・ビジネス特講 A・B、現
代社会と社会教育 I・II、歴史と文化 I・II、際と生活文
化論、グローバルコミュニケーション A・B・C

○ゼミナール

伊藤陽一(統計学)、給所秀紀(開発経済論)、岡部雅史
(環境科学)、稻谷信次(日本経済論)、黒川和美(公共
経済)、眞 芳祐(国際関係論)、永井 達(理論経済学)、
西澤栄一郎(環境政策論)、馬場敏幸(アジア経済)、松
波淳也(環境経済学)、村串仁三郎(環境問題)、山本健
児(経済地理学)、山本真鳥(文化人類学)

○環境関連科目

世界の経済、公共経済論 B、環境政策論 A・B、環境経済
論 A・B、自然環境論 A・B、世界システム論、国際政治論、
環境科学 A・B、環境と技術、現代アジア経済論 A、経済地
理 B、自然保護と開発の履軌

○ゼミナール

池田寛二(環境社会学)、島本美保子(環境経済学)、壽
福真美(社会学)、田中 充(環境政策論)、田中優子
(江戸時代の文学・生活文化)、東郷正美(自然地理学)、
船橋博俊(環境社会学)、堀川三郎(環境社会学)、矢部
恒彦(都市景観論)

○環境関連科目

価値と規範 I、地理学、自然環境論 I・II、環境と化学
I・II、科学史、国際社会論 I、多摩地域形成論 A・B、社会
国際社会論 I・II、社会調査実習、調査研究法 B、社会
政策科学総論 I・II、政策過程論 I・II、社会計画論 I・
II、市民運動論 I・II、社会思想史 I・II、人間論 I・
(2)、環境論 I・II、環境社会学 I・II、都市景観論 I・II、
環境経済学 I・II、都市政策論 I・II、国際政治論 II、経
済発展論 I・II、南北問題 I・II、環境法、農業・食料論、
経済発展論 I・II、地域研究 I・II(アジア)、スポーツ社
会学、国際法、演習 I

現代福祉学部

○ゼミナール
岡崎昌之(地域経営論)、萩原俊一(都市・地域環境デザ
イン論)、本間義人(都市・住宅政策)、山岡義典(非営利
組織論)、保井美樹(地方自治論)

○環境関連科目

社会思想史、社会システム論、自然環境論 I・II、まちづく
りの思想、都市と環境、人と環境、都市住宅政策論、地域
ツーリズム、文化環境創造論、居住福祉、バリアフリー概論、
地域経営、地域政策、地域文化政策、レクリエーション論

○ゼミナール

大澤泰明(先端材料工学)、井野博満(材料物性学)、川
上重重(繊維工学)、御法川学(音響工学)、西海英雄
(反応工学)、大河内正一(人間環境工学)、守吉祐介
(材料化学)、今井清博(分子生物学)、佐藤耕一(有機
化学)、綿方啓典(凝縮系物理化学)、白井五郎(電力シ
ステム工学)、斎藤利通(ニューラルネットワーク回路理論)、渡
辺嘉二郎(制御工学)、西谷隆巨(河川工学)、山田啓一
(河川工学)、清水泰郎(コンクリート工学)、草深守人(地
盤工学)、森田 喬(都市計画)、岡 豪道(環境水文学)、
高橋賢一(地域計画、都市計画)、清湖利明(建設材料
学)、後藤剛史(建築環境)、俣内秀信(建築史)、大江
新(都市計画)、出口清孝(建築環境)、釜邊眞理(ア－
バンデザイン)、安藤直見(建築計画)、富永 謙(建設設
計)、古川修文(建築環境)、永瀬克巳(地域、建築、造形
デザイン)、高村雅彦(都市史)、武田 洋(シミュレーショ
ンSD)、斎藤兆吉(シミュレーションSD)、大島礼治(インテ
ストリアルSD)、竹内則雄(シミュレーションSD)
○環境関連科目
エネルギー変換工学、金属材料、環境学概論、環境工学、
航空機、自動車、技術者論、基礎物質化学、基礎物質
化学実験、人間環境化学 A、生物情報論、触媒設計論、
環境工学、物質安全化学 A・B、発電工学、原子力工学、
電気法規および施設管理、国土形成史実習、工学基礎デ
ザイン、工学プロジェクト実習、地盤環境解析、地域計画、
都市計画、水文学、水文学演習、河川工学、水工学、地
下水環境工学、地盤環境解析演習、地盤基礎デザイン、
地域・都市計画演習、地下水の水理、都市環境デザイ
ン、土木工学ゼミナール、地下水の学理、都市環境デザイ
ン、地域・都市計画演習、交通工学演習、空間景観論、
土木工学特講、建築入門、建築生理心理 I・2、都市計画
I・2、建築史 I A・B、風土建築論、都市史、都市再生論、
造園計画、景観計画、建築構法論、サステイナブルデザイ
ン、環境管理論、建築都市史演習、建築研究、環境経済
学、化学英語、エンジニアリングエコノミクス、システムデザ
インワークショップ、エンジニアリングワークショップ

参考資料:『大学案内』2006.5 各学部発行のシラバス
(2006年度)

(注)本リストは『大学案内』及び各学部で発行しているシラ
バスの記載内容をもとに作成しています。ゼミナールは
『大学案内』を、環境関連科目は『シラバス』を参考に
しています。今後とも内容を更新する予定です。